

昭和三十一年三月十九日招集

第一回定例会(第六日)會議錄

昭和三十一年館山市議会第一回定例会会議録

昭和三十一年三月十九日招集

議長（石井潔君）申し上げます。本日出席議員数三十二名

こゝより第一回定例会第六日會議を開きます。

本日會議事は、前回に引続きまして議案第九号、ないし第十四号の予算案の内容に対する質疑を行ないます。

十八番（小沢太助君）議事進行について一言申し上げます。

ただいま本日日程となりまして議案第九号、ないし第十四号の全予算案審議は議事の進行上、

予算と特別会計予算案を區別して、第九号議案と第十号、ないし第十四号議案は、

歳出の部を、歳入の部と分けて審議いたします。

議長（石井潔君）お諮りいたします。ただいまの十八番議員君の動議に御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

御異議なしと認めます。こふよりさうに決定いたしました。従いまゝてこふより議案第九号の歳出の部ににつき審議を行ないます。

三十四番（嶋貫杜作君）昭和三十一年度の予算の金体に対する質問はどこで……歳出と限らねると困ると思うんですが。

議長（石井潔君）ただいまの十八番議員君の動議がさうなことで

三十四番（嶋貫杜作君）知っていますが、そうすると困ると思うんですが、一括して質問したいこともあります。

議長（石井潔君）しばらく休憩いたします。

議長（石井潔君）再開いたします。

三十四番（嶋貴杜作君）予算ヲ審議に入る前に少し質問が聞きたいことがあるんでお尋ねするわけで……

市長さんは昭和三十年度、予算を執行するに当りましてある種目に限って、いかに

聞いております

が、事実でありますかどうか。それからことしも同様の方法をお採りになるかどうかについて。—— いたします。

それから第二問といたしまして、先だつて市長さんう言明に移転的に経費は一千八十七万かと思ひますが、そう記憶しておりますが、これを—— いろいろ

お話がありまして、たが、こゝ

その金というものが、バランスをとる關係上、支出面の方

どうか採り上げられていなければならぬ。いうことになりま
すし、それから支出の各項目へこの一千八十七万かう配
当がなければ、歳入面でどうか削りになつたところがあるか
と思われるのであります。それからあるいは、両方う立場
を一緒にしてなされたかどうか、その間の消息をお伺い
たいのであります。

それから先だつてのやはり、言明のなかに一千七八百万とい
うのは赤字ができる。いう言明がございまして、一千七八
百万、赤字がこう当初予算を組むときにおわかりであ
るならば、繰り上げ流用をする関係上、それをどう処置さ
れるか、また例年のように繰り越し、滞納繰り越しを
もつて、その金に充てるというふうな單純な方法をお採
りになるか、その点についてのお考えをお伺いしたいと思
います。いずれにしても、——歳入面に多くなつて

くるだろうと、こういうことを考えますんで、歳入面について
あとで回答はよろしいんであります。計算のなる関係
があると思われまして、申し上げておきますが、ことし
う昭和三十一年度、税の調定——額と申しますが、それ
を第一課長に第一課長でなく第二課長にお尋ね——
たいのであります。それからそれらに合せて昭和三十
一年度、調定額がいくらか、これに対していくら入っているか
——ということをお調べをお願いいたいたいです。

それから第二課長に対して、昨年度、昭和三十一年度
う——うときに滞納はいくらあったか、これですう
滞納はいくら入ったか、あと余すところ十日間、ことしうなに
も切れるわけでありまして、あと五月までは——
いいと思っておりますが、そう五月と四月を入れない——

——見込みをませて御回答が願いたい。それから、それに

対する日歩三銭かとっている。その総額がいくらになつて
るかということをお願ひしたいと思います。

それから昨年度における公営企業、および財産収入が
統計でいくらあつたか、ということをお願ひいた
します。

それから使用料および手数料、昨年度の合計がいくら
あつたか、ただしこゝで使用料の中で授業料、それから
入学料、住宅使用料とかことし、なごりに、は
います。見積らるものは、昭和三十一年度の正確な数
字によつて計算したものをあらわさない。

それから、—— および国家から受ける補助金交付金
が三十年で、—— いくらあつたか、それから果ては、同
様であります。落ちがあつたりまた、あとで、お願ひしま
すが、のちほどよろしうございます。お調べおきを願

いたい。はじめの三つは点々答弁を市長さんをお願いいたします。おわかりにならなかつたらもう一度申し上げます。
市長（田村利男君）お答え申し上げます。三十年度には

三十四番（嶋貴杜作君）いや、それを聞いてんじゃない。ことしもまたこういうことをおやりになるかどうか。

市長（田村利男君）それと同じようなことをことしやるかということ。——いまいところ、そう

いうことをする予定はございません。移転的経費が一千万円の行方はどうしたかという問いでございしますが、これは移転的経費が予算の当初三千万円ございまして、それを相当圧縮しまして一千五百万円に——さうに一千万円という——をとってきたわけでありますが、

こり一千万円を

この一部分を予備費へ盛ってございます。そしてまた一部分を市長交際費で盛りまして、どうしても移転的経費という名前では解決できないものが将来起るといふうな——でございまして、市長交際費で——

——そして、またそのほかはどういたかと申し上げますと、かなり赤字財政で——困難にしているわけでございます。一千万円というものは大体において滞納繰越金を予定しておるといふことに結局はそういうふうな結論づけられますので、ひとまず滞納——

最後に一千万円

赤字の財源についてはどうするかという問いでございます。が、これはやはり熊山市の現状としましては——

滞納をもって財源に求めたいという。

議長（石井潔君）三十四番さん、あと質問はうちほど。

三十四番（嶋貫壮作君）あとで結構ですから、ひとつお調べ願いたい。

議長（石井潔君）それを保留いたしまして、審議を続行いたします。ほかに御質疑は。

十二番（山本昇君）ただいま、三十四番議員君。

な質問。

先般来いろいろからみまいて、なん

といつても、こゝ予算、三十一年度、予算、問題につきまゝ、産業経済府が極端に削られた。こゝ根本的な問題は、いわゆる移転的経費の削減ということによって、そういうことが多かったんで、おろすとそれを削られた。

いかしながら、それに対して、さういったことをするならば、なぜ事業費として盛らないかという議論がありまゝだが、こゝは市長さんより、一応は言明によりまして、一応――

追加予算、その他の意味におきまして、市の計画を樹てて、予算を盛るといふことで、一応了解いたしまゝだが、なおさういふ――

なぜ当初予算に盛らないかという議論も出るかと思ひます。その点につきまして、さういふことがあつたらば、当初に、なんぢ、事業計画を樹て、そして、予算に盛らないなう。

さらに、ただいま、市長さん、説明で、こゝは、事業を含めて、市長、交際費に振り向けて、一応、こんご、さうした移転的経費、う占で、これを充てるといふようなお話を、ありまゝだが、三十年度におきまして、市長、交際費は、三十五万、ところが、三十一年度におきまして、その

倍額う七十万、果たしてこゝ倍額になりますところう三十五
万の経費でそうしたことができるかということ、それからさらに
予備費にも

市長さんうー

—— 三十年代におきまして百二十万の予備
費であつたのでありまして三十一年度におきましてハ
百万の予備費がある。百二十万に対する

—— ことは、三十五万、こゝうた費用で、果たしてまか
ねえるかということをお尋ねしますとともに、そういつたこ
とは、いわゆる含みとして

果たして、これが

—— ありますところう移転的経費の方へ
向けるということが許されるか、いう問題をお尋ねいたし
ます。

・ 助役（小出武男君）ただいま、山本議員からう御質問でござい
ますが、

—— 移転的経費をなぜ盛らな

かったという点でございますが、これにつきましては一般質問の時に確かあったと思いますが、事務上の不手際といえは不手際になるかと思ひますが、総務課長が――

――すでに二月の中旬でございますが、――予算編成後でございます。――かもこのいわゆる移転的経費なるものが、いま市長が申しましたように各課の要求が三千万円もあったものを千五百万に切り、さらに一千万円に切詰めたということ自体に非常に問題があつた点でございます。――むしろ以上、わずか数日うちに情勢が――

――ということは、事務的にも不可能でございます。――さうに予算を印刷、――さういふような関係もございまして、――その際はあとに――一回、――その際は――一応載せないという方針に市の方とはとつたのでござい――ます。――それから、交際費がほかの種目が相当減つてゐる――

の上に上がつてゐるのはどうかという点でございますが、一応
本年度三十五万から七十万に一躍倍額にいたつたのでござい
ます。が、これはただいま、市長が申しましたように、移転的経
費、補助金、負担金等におきまして、相当な制約をいた
しまして、ために、実際年々間、運用にあたりましては、そ
は、その間に若干、補正をしなければならぬ点が生ずるだ
ろうというのを一応予想したつてございます。

一かも、その内容が従来することを考えますれば、やはり
交際費へ盛つておいても、調整をできると、予想される面が
非常に多かつたということが理由といたしまして、一部、もう
につきまゝでは、この種目によつて、これによつて補正を行こ
うという考えがあつたのでございます。

まず七十五万を申しますと、大体年間、三十五万
というものが、非常に前年度、実績から考えましても、非

常に少額であつたことは現実にあつておりますので、少額な
くとも十萬くらい金は当初において当然加えるべき実
績をもつておるといふ考へ方とさらにいま申しまゝなほ
うな費用をそれによつていたします。さらにまた従来
市長と實際費は全部市行政の窓口でございまして、い
ろいろな——団体、その他あらゆる面が交

渉とかすべて交渉関係でございしますが、露骨にいいま
すれば優勝旗をあげてくれ——

なんだというふうな細かい面が非常に多いんでございま
すが、それがこゝろ予算には——とかい

名目がございせんので、一応と實際費の名目で全部と
出たのでございします。

従いまゝであるいはほかの市から比較いたしますとま
は、ちよつと多いように考えられますが、これは予算の

編成の仕方でございます。

一目瞭然

然と赤裸々にいたしたいために

二

際申し上げておきたいと思ひます。なお第三款の予備費でございますが、予備費に三百万円ということになります。従来は百二十万円、二億の予算で百二十万と、いうことでは予備費としては常識的に少ないんじゃないか、ということがいえるのであります。大体、予備費の概念をいたしましては、総額の大體二パーセント、当市の財政規模に申しますれば、まあ、三百万から四百万くらいが普通の常識の予備費のとり方になつてゐるやうでございます。三百万円が、多い額じゃないかと

なおいろいろな

やうな関係もございます

予備費の利用につきましては、十分議會の意思もありま
すので、こんごうそうした移轉的経費が多寡とかあるい

は予算、予備費、本来の性格と十分生かしまして執行したいとかように考えておりますので、御了承願います。十二番（山本 昇君）ただいま、助役さん御説明で一応了解いたしました。さらに私、聞きたいことは、交際費がふえている。予備費がふえている。という面は――

――移転的経費に――

――一応了解――

いたしました。私がさらにこうしたことがいわれる――

――移転的経費が――

――こういったもの――

は、認められるかということをもう一ぺんひとつ。

・助役（小出武男君）こゝは、いわば運用技術の問題になると思っています。補助金あるいは負担金と銘を打って、その種目から出すということは、本質的にやはり、同様の性格を持つんだらうと思えますが、交際費と異なります。こゝは――

やはり市長の行政運営の考え方におきまして、その仕事に
対してとくに市長の行政運営上ういわける

交際的なものという考え方で支出の種目を代えて行くとい

う

やはり

じゃないかと

いうこともあるいは

とも限らないと思うんで

すが、やはり交際費という名目で

を代え

まして市政の

ということに市長がそう

折々に応じた考え方を使って行くというふうにいたしますれば
かならずしも補助金、負担金

この経費を計上して産業経済

をみ

たさぬということをしちやうんかと思ひますが、この点につ

きまゝて

市長（田村利男君）私は自治庁の趣旨としまゝでは赤字克服から出発しておりますので、本市は千七十万円の経費は今後一切出すなという趣旨だと私は思うんです。ーかしながら、館山市にはまた館山市の特別な事情があり、どうしてもこゝだけのものは単独事業化してもやらなさいけないという事業があるわけでございまして、その分につきまゝでは今後地方課あるいは直接自治庁へ参りましてどうしてもこゝはそう――切れるもんじやないということの

折衝をいたしまして千七十万円かならずしもこの額が多いわけではありませんけれども、この額を全部出すことはおそらく不可能だと思います。ーかしながら、ある程度の折衝のできる範囲内におきまして二百万だけの移転的経費のいわゆる二パーセントという額を上回る数字

におきまゝいろいろな施策を単独事業として考えて行きたいと思う次第でありまして、どうしても自治庁が承知することかできず、一かも館山市の事情には、どうしても二小なう、単独事業という言葉をもつて、でも予算化し得ないというような問題につきまゝては、市長と実際費という形をとりまゝで、市の発展を考えたいと、こういうふうに考えているわけでございます。

十六番(脇田順一君)　ただいま、松本議員の質問に関連をもちますので、ちつと伺わせていただきたいと思います。

それは先ほど申し上げました、山本議員でございます。私も産業経済費が非常に少ないというのは、すでに――

――これにこんご振り向けらるべき市長さんのお考えを推測いたしますという、二百万そこそこを全部――

いたしまして

二百万円、そこそこの状況であります。これではとても話にもなんにもなりません。我々は非常に不安を持たざるを得ないであります。ここに産業経済のこの予算案はわいわい、これをいいとか、悪いとか、いまだちに審議する勇氣を持ちません。あるかくし財源と申しましたら、語弊があるかも知れませんが、市長さんと信頼し、将来に含み財源といえますか。そういうものでカバーしていただけるならば、我々はいささか、安堵をするのであります。二百万円、そこそこ全部頂戴いたしましても、とてもこれは雀はえけり、雀う渡はどうかとあります。今日館山市内における産業の生産を増強するところか、意気沈滞の一途をたどるものでありまして、こういうことは我々とても了承することができないうであります。従つてこの産業関係の予算案の審議は、私たちは保留

したいと思つてあります。

もうひとつ承りたいのは、こゝ

の表のために移

転的経費の性格をもつて、削られたさうであります。が、その前に市の査定はすでに済んでおつたはずであります。

農産課長と市長さんの方で協議、決定線を出さないと、思います。が、その額がどうという額でございます。か、もちろん、それだけでわいわいは満足はいたしません。が、少なくとも、その線は最低に確保さなければならぬ。ではないかと思う。差支えなかつたら、御発表いただきたいと思つて。

() 産業経費が本予算に出て、以前にどのくらい市では考へておつたかということ。で、ござい。ますが、大体、前年度を最低限といた考へ方は、も。つておつたんで、ござい。ますが、従いまゝて、産業経費におきまゝては、予算書で御覧のとおり、各項にわた

りまして相当な減額がみておりますが、こゝにつきまゝ
ては先般もちよつと申し上げたと思ひますが、いろいろ県
国、その他法令に基かない負担金であつても、市政に重
大な關係を持つものにつきまゝては、ワケ外に考えらるん
じやないかということを申し上げますが、こゝは先
般――

―の意見でございまして、こゝ通

牒が近々くることになつておるといふことを申し上げたが、
私どももそれを期待しておるんでございまして、二百万円で
全部、その来年度の市、補助金負担金を制限をし
ようとは、絶対に私どももいふところ、考えておりませんで、
こゝをどうくらくらひなるかということは、こんごう問題でござ
います。が、十分市長さんとも相談をしまして、また上級官庁と
も相談をしまして、可能な限りにおいて、こゝを復活さ
せて行きたいといふことを念願をしております。

また、現在そう考えておるわけでございます。以上。

十六番(脇田順一君)　そういたしますというところであらゆる手段を講じて前年度程度のもうは確保していただけると覚えてよろしうございますか。(笑声)

市長(田村利男君)　法に基かない。補助、負担金が多額あるが農政の予算でありましたので、いまだちにここでも去年通り予算をパーセントあるいはそれ以上出すということには申し上げられません。なるべくできるだけの範囲におきまして努力することを誓います。

三十五番(小沢光義君)　大分この産業経済費の方で議論が集中しておりますが、この産業経済費について質問をいたしますが、第四日目一般質問の際に私はこの産業経済費の予算は審議する価値がない。こういうふうに申し上げましたところ、市長さんが産業経済費に

限らず移転的経費の削減の箇所はかくし財源でもって
 やるとそこで私はかくし財源はあてにやならない、どうい
 うものがかくし財源であるかというのと滞納分、こういうわけ
 で決いて――

予算措置をしない、こういう
 ふうに確約されたのですが、今聞いてみますと、前年度
 通り予算は公表せないかも知れない確約することはでき
 ないといひますと、こゝ予算書には実際の話が産業
 経済面においては仕事が行にもできない、こういうことに
 なります。我々、市民が税金を払って仕事をしてもらわ
 ないでもってそれで市役所を――

誰も税金を払う人はなくなる。それからいま助役さんや御答弁
 には切られた分をいくらでもカバーするために市長や
 交際費に三十五万円あげたと、そのうち十万円は、当然
 市長交際費として増額すべきものである。そうしますと

残るところは、二十五万円、それから予備費う百二十万を――

――これもおぼつかないもので、こういう――を――

予算の――

――なぜ、この産業経済費に補助的

種目でなくて、種目を事業種目に切替えて、そうしてゐて
くれないか、これを私は第四目う一般質問のときにも質問
――たんです。産業経済面については、市当局として、誠
意がない、――こういうふうにみるよりは、仕方がありません。
――

――この――財源も確たる財源がなければ――

――がでないんでありますから、ただいま、脇田議員から――

――がありま――た県へ査定にもって行くとき、最初市当
局でお組みになった予算、最初産業経済面関係の、農
産統計課でもってつくつてあるはずですよ。それをきよう
配布願いたい。以上です。

――（交際費、予備費に考慮したから、産業

経済費の種目や組み替えの余裕があったんじやないかと。いうことが第一点でございますが、それは先ほど申しましたように時間的余裕がございまして、毎度申しますように産業経済費におきましては、相当補助の対象になる部分が多かったということ自体が短期間に組み替えることの困難性を物語っておる点でございます。予備費、交際費は事務的に極めて操作上、簡単にいく分でも、そういう組み替えができたので、やっただけでございまして別に産業経済費を軽視しておったという考えは、当初から毛頭ございせん。なお、第二点、当初市が考えておった産業経済費の総額を公開しろということでございますが、この点につきましては、一応、予算書に御明示いたした点に付随しまして、市長が毎度申しますように、こりままでは、――

がないなということをはつ――

願いまゝて市長がこんご善処されることとてございますので、
非公式にみせるという)こととていたらあれますが、別に提案
と関係ないんで、公開することはいかがと思ひますがどうでほう
三十五番(小沢光義君) 県へ持つて行つた当初の編成された、市長
さんが決定されたのは、公開できないと、その点をはつきり……
市長(田村利男君) 議案でないものをこの議会より席上で示す
必要がないというふうに存じましたら、用意もいたしませ
んでいたが、御必要があつたら農産統計課の方でお調
べになればわかると思ひます。かゝうに考えております。

十七番(鈴木市蔵君) 産業経済、産業経済、ばかに産業経済
といひますが、産業経済の問題ですが、水産費は十五万
というふうな予算に—— 盛であるんですが、私は——

——施政演説は聞きますんでいたが、おそらく水産の——
——と思ひますが、十五万でもって、館山市の水産

がやかるか、やらないか、というのは、常識的にも一応考えらるべき問題だと思いますが、ただいま――

を聞

いてみますと、果へ予算を提出したその場合に一千万円というものが削ったという場合に当然、予算総額を果へ――

提出した場合には歳入と歳出があったもの

を果へ提出したと思います。その一千万円を削ったその予算を歳入を切つてあるか、歳出が切つてありますか、歳入はどういうふうに切つてあるか、こゝがひとつ。

切った歳入り面、経費費の面、切つたものはどう予算の方へ入つてあるかという二つ、点をちまつて答弁願います。助役さんでも、市長さんでも結構でございます。

助役（小虫武男君）ただいま十七番議員さんから御質問ですが、三十四番議員さんにさつき、市長さんから御説明した骨子でございまして、例えば水産関係が十五万ということは

なるほど館山市の水産行政としては極めて少ないようにみえますが、これは仮に例を申しますれば築港問題、こういう点を繰り上げましても、これは水産の関係に非常な、

これは土木費の方に盛ってある。

こつう考え方でごさいます。ただ水産という名目においては少額であつても、実質的には土木の方で相当カバーしておる。こつうふううにひとつお考え願ひたいと思います。

。十七番（鈴木市蔵君）

さつき助役さんういったとおり、前年度程度う予算を組んだけれども、これは切られたというお話で、歳入と歳入と、いうものに對しては見通しがついたものを果へ提出したと思ふんですが、その場合にその切った予算をどつちへつけたか、また歳入と歳入は所方切ったものであるか、こつう点とまたいまあなたがおつちがつたとおりの内容の中に漁港

問題が入っているところおっしゃるんですが、前年度の予算ではやはり、漁港は漁港、水産費は水産費と――

市長（田村利男君）切った財源が歳入と歳出の問題でございますが、滞納繰り越し金を過少に見積りまして収入をひとまず抑えているわけでございます。歳出もなおいく分かを予備費と市長が際費の方へ一部回わし、まあたが大部分は歳入の方を切ったとこういうわけでございます。

十七番（鈴木市蔵君）

市長（田村利男君）最初果へ提出しました予算案の滞納繰り越し金は私は自信をもって繰り越しできる額を計上したわけでございます。従いまして、それを一応引っ入れて

過少に見積った額につきまゝでは、当然予定し得る財源でございますので、これを全部出せば、曲りなりにも皆さんの御納得々行く予算案だろうと思うわけでございます。しかしながら地方課あたりいろいろな施策によりまして赤字団体におきまゝではできるだけ滞納繰越分が余期できても、それを使わないで赤字を埋めるようになっていけるが、二十九年に赤字を生んだ市や運命でございます。宿命でございますので、一応こういう案をつけたわけでございしますが、こんご皆さんとうさらに折衝によりまして、こゝ経費費の増額ということは積極的に考慮したいと申し上げておきます。

。二十四番（萩生田七郎君）

市長（田村利男君）お答えいたします。移転的経費を更正化したと申しますか。市役所単独事業の形に直して施行する。いうことはたびたび申し上げたとおり、こんごともなおいろいろ研究の結果研究の上、そうしたいと思う次才でございます。食糧費等いろいろあるようにございませうが、予算編成にあたりまして、じゅう費、弁当代とかを避けるようにという方針のもとに作成されたわけでございますが、緊縮いたしましたことでございまして、なお運営に当たりましてもできるだけ、市長におきまして注意いたし使用方法を監督するつもりでございませう。よろしく願います。

議長（石井潔君）一ぱらく休憩いたします。

議長（石井潔君）休憩前に引き続いて開会いたします。

午前中の会議はこゝで打ち切りまして、午後は一時再開といたします。

議長（石井潔君）午後より出席議員数 三十三名、こゝより休憩前に引き続き会議を開きます。

市長（田村利男君）申し上げます。いろいろ御慎重に御審議願いましたがお、御納得が行かない点もあるいはあるかと存じますので改めて少しばかり補足したいと思ふ点がございますので申し上げます。いろいろ問題になっておりまして、市が財源でございしますが、最初、市長が各部課に命じて編成いたしました当時は、滞納を二七パーセントと抑えて収入をみたわけてございます。

一かゝり。その後、地方課等より折衝によりまして、これでは自治庁の趣旨に反するからというので、これを一〇・七パーセントに引込みました。言葉は悪いけれども、この辺がかくし財源ということになっておると思いますが、二七パーセントで健全収入が図れると思つていたわけでございます。

それを止むを得ず一〇・七パーセントに引込みましたわけでございます。まして従いまして、それをもしも最初より予定しており、二七パーセントを遠慮なく予定しますと、そこに九百万円あるいは予備費に回した百五十万円、合計しまして一千万円以上より余裕があったわけでございます。市長におきましては、こう一千万円を丸々使つても決して館山市の財政を危機にひんさせるということとはなかったわけでございますが、いろいろ上との関係がありますので、一〇・七パーセントに引き下げまして、一応予算を組んだわけでございますが、

いろいろ問題にあります。農産費の問題にしましてもいろいろ皆さん御質問があります。ごくごくばうんに申し上げます。先ほど課長ともいろいろ折衝しました。事業費におきまして、果ならびに市ならびに地元の負担金を合計しますと、農産費において九百万以上、あるいは一千くらい出しても、これは市の単独事業として行う金でありますので、当然、地方課あるいは自治庁の承認も得られるものと私は確信しております。そういうわけでございまして、なぜ九百万、一千万金をすぐ予算書に載せなかったというお叱りは誠にごもつとでございしますが、二月十何日かに呼ばしまして――まだ、その単独事業を行いました場合でもなお、それに若干いろんな折衝する面が、残されたものがありますので、ぜひそういうものを解決できません面もありまして、一応当初予算から除いたわ

けでございすが、事業費九百万くらいいうものは仕事ができる。いう自信がございすので、今回つけ加えて申し上げておきたいと思ひます。

・三十四番(鳴貴杜作君) かくし財源と申し上げますと、語弊があるかもしれませんが、こゝほかに本年度は一千七、八百万円の赤字になるだろうという予想もとに立っているわけでありすが、それを消化し得る力が九百万円を出して、なおかつ残りますかどうか、その点について。

・市長(田村利男君) 九百万円という金は、市の金庫から丸々出す金ではありませんので、大体そのうち三分の一前後のものが三百万円前後のものが、市の負担となる予定であります。ますので、かくし財源一千万円の約三分の一でございす。・三十二番(望月暉作君) ただいま農産物事業費は、大体九百万円くらいは出せる確信があるというお話でございすが、

ーからは、水産商工関係および産業の面でございしますが、こ
かについてどういうふうに考えておりますか、それから追加予
算といいますが、追加予算でなくして事業として私は当然
当初予算に盛るべきだと思う。かように考えております。
・市長（田村利男君）毎度申し上げますとおり、予算書を調
整する日がありませんでしたので、おわび申し上げます。
また、商工水産関係におきましても、農産事業と合わせ
て全部、事業費として、単独事業に向けられるものは
振り向けて参りたいと思います。

・十四番（飯田義男君）

・二十九番（黒川佐太郎君）ただ今、市長の御答弁ですが、農業
関係の費用が約一千万円ほど増額する見込みだという

ことですが、この分に対しては、当局の了解といいますが、
 そういふようなことが必要であるかどうか、また必要である
 とすれば、移転的経費はいけないという建前から、ただ予
 算の面で形を変えたという
 念のためにお聞きしたいんですが、

市長（田村利男君）いまのところでは、移転的経費、市の単独事
 業につきまゝでは、そうむずかしい干渉がありませんので
 干渉さへないようにあくまで、単独事業の形にもつて
 行つたら、大体移転的経費の組替へという、実際はそうで
 あつても通ることと信じております。

二十七番（伊勢仙之助君）市長さんにお尋ねします。

本年は、

ような方法はおやりにならないうで

十分やり得るというふうにお考へになつておりますか、そ

点について

市長（田村利男君）あくまで予算は議会で決定されたものでありますので、市長といたしまゝではこれを忠実に実行したいとそういう意味からもちまゝで——はことしはやりたくないと考えております。ただし、いろいろ赤字財政の折柄でありますので、資金計画をいたしまゝなるべく予算全部をもちまゝから全部使ってしまうということは避けまゝなるべく各部課に命じてそういう中で陰約してゐるという意味の資金計画というものもあって、やりたいと存じます。

三十六番（嶋田繁君）先ほど御質問に對しまゝで市長は、産業面を經費一千万円くらいはわかる。それは地えおよび県から出る金が約三分の二くらいを見込んでおる。三というふうなことですが、これはあんまり安易な見方

じゃないかと思うんですが、もし三分二というふうな率に果
たして違ひなくとも、一千万円とか、産業の方の仕事をや
りますかどうか、それをひとつ伺いたいと思うんです。
そして、滞納繰越の取源が、いわゆる待機や姿勢力にお
いてあるというふうな見方をしたんですが、そこから少しは
おせると思いますが、要するに三分二に行かなくとも
一千万円は、どこからどうしても、あるというお考えですか。
それひとつ伺っておきたい。

市長（田村利男君）大体九百万円の数字でございしますが、
今まで農産事業の内容と申しますと、果から事業
費をもらってある。地え負担で三分一を出す。その
上へ市から三分の一くらい負担してもらう。これで地えが
事業施行主になってやるという方法をとっておりまいた
で、結局、今まで地えが負担したもので、果が出たもので

の二つを地え民から改めて市へ寄付してもらつた形になり
そして市から負担を出しておつたものを、こんどは市が
前の負担分を合わせて、三つうもつて市が単独に事業
をするという形をとりますので、大体今までどおり
果の方針が変更しない限り、また地えの仕事に対する
熱意う変わらない限り、大体今まで通り、部落が単独
事業で施行主でやつたと同じ仕事が行われると存ぜら
れます。ただし、そこで果からくる地えが協力する熱
意が欠ける。悪い条件が二つも三つも重なつてしまつた
ときには、それぞつ委員会なり、機関に御相談申
し上げて、万金を国りたいと思つた才でございます。
。十四番(飯田義男君) 我々考えでは、現在歳入の面にお
きますと非常にかくし財源が、この中にもあるんじゃない
かというふうに考えます。その一点といたしましては、

リ、市税の面でございしますが、市税が

調定額が約二〇パーセント

くらい

非常に過少に見積られておる。あるいは本年度地方交付税が国より予算が非常に上がっておる。こういう観点から考えましても、この三千二百万という

なお、使用料および手数料においても、百万くらい収入は見込んでいいんじゃないか。こういういろんな点を総合しまして、約一千万というかくれ、財源と申しますか、この歳入には、少く見積もられておるんじゃないかというふうな感じがするんですが、市長さんは、やはりこれは自治庁から指示で、このくらいに見積もることで見積もられたのか、あるいは、市長さんの赤字克服の意味で、こういう堅実すぎるような歳入を見込んだのか。この点について

一応お伺いしたいと思います。

なお、そのほか、教育費が、あります。このなかに、各学
校。

——こゝがもし許可にならない場合、当然で
きなくなるんじゃないかと思ひますが、この見通し、いかに
こゝともう一点、先ほど交際費の問題でいろいろ話があり
ました。交際費は私が前に質問した時には、助役さんは
交際費はいろいろ市が交際にかかるから、交際費を倍に
あげたんだというお答えのように私は承知してあります。
また、市長さんのお話には、そのうちに、いわゆる、かくし財源
が含まれておって、産業経済費においても、同じく負担金
をここから出すんだ。こういうふうにお答えがあったように思ひ
ます。私は口實に承った御意見を、そゝろまきととめて、
市長、交際費なるものが果たして、そういうふうなもので、
使つて、いかどうかという点とつて、定義があると思ひます。

この辺の見解をはつきりわかるように御説明願いたいと思います。以上大体三点をお伺いしたいと思います。

市長(田村利男君)お答え申し上げます。収入を過少評価しているんじゃないかというお問い合わせでございます。

誠にその通りでございます。あくまで市は三千百万の重荷を背負うておりますので、できるだけ多く仕事をし、できるだけ多く借金を返したいというのが私ういつも――を

悩ましておる問題でありますので、あるいは収入に過少評価してある点があるわけでございます。――かしながら、本当に必要な仕事なりあるいは必要な事業が起ってきたとき、そのときに偶然に交付税が思ったより高くついたというような場合には、毎年例に徴してもわかるとおり、そこで改めてまた予想もつかない追加予算というわけがあるわけでございます。――はじめから百パーセント百二十パーセント収入を予定

—まゝで当初予算でかかって—まゝですと。あとで急に大きな仕事を—たいというふうな財源が全然見出すことができません。大体、仕事を—する財源を見出し—て、いく分—みてゐることは事実でございます。また、つぎに赤字団体に—まゝでは、収入財源を百パーセント見込むということは、もっとも好ましくないものであります。そういう方法をとつたわけであり、まゝで決—て中央から、示唆に—まゝ—たわけでは—ございません。学校起債がもし許可されない場合には、—学校、建築施行は中止—ということになります。

それから、交際費にいろいろ移転的経費のものを、市長、交際費から出—ていいか、悪いかという面でございますが、—これも限度はあると思うんですが、私は、—そういうことによつて、市全体の向上を図ることができ—ますならば、差し支えない

と信じておるわけでございます。

・十四番(飯田義男君) ただいま御答弁を伺いますと歳入の面では非常に堅実な歳入を見込んである。しかしながら現在においてはまだ、はつきり目星がつかないうちにもかかわらず、こういう起債がしてある。これはアンバランスじゃないかと思えます。それと同時に交際費の件でございますが、市長は市うためになるというなら、交際費に組んでも差支えないというお答えでございますが、――

果して実質的な

移転的経費になりはせぬかと考えるんですが、市長さんうち考えをもう一回お尋ねします。

・市長(田村利男君) 本来この審議途上におきまして、こういう経過をたどたがために、そういうことが考えられるんであります。これを第三者的にみますならば、交際費そのものは

いわゆる文際費であつて、市長が市政運用のために使う——
いかばと思ひますが、文際費的の費用と
一般概念から申しますれば、そこまで詮策しなくてもいいん
じやないかというふうに考えております。

（「もう一点」と呼ぶ者あり）

市長（田村利男君）学校へ起債が許可できない場合という
ことをこれは当然考えらるゝでございまして、一か一かはから
なんといひますが、運動いかによつて、かなり起債ができる
場合も、できた過去の実績もありますので、どうしてもこの
学校を建てたいという場合には、当然、そういう方法をとり
なければいづつまで経つても、本當の起債の許可がきて
から追加予算でやるということになりますと、来年の二月
になつてはじめて、学校へ起債許可がくるわけではござい
ますので、それからでは、いろんな面につきまゝて、不都合が

起りますので、まず当初予算で起債を予定してあげてあるわけでございます。

・十四番(飯田義男君)——からば歳入う面で市長さんうお考えでは大体どのくらいかくし財源——歳入増加という

なお、いまう学校債う問題になりますか、これは——

見通しがハパーセントないし九パーセントあるうかという見通し、この点はどう程度に見通しをもっているかという点。

・市長(田村利男君)——学校起債う問題につきまゝて教育委員会が立案でございますので、教育委員会に——

教育長(工藤和子君)——学校起債について申し上げます。学校起債は事務当局をして調査研究させました結果、大体この程度は見通しがつくという事務当局の見込みでありますので、ただいまのお言葉のように何パーセントというふうなことは

は、ちよつと即座には申しかねますが、この点で御了承いただきたい。

・三十二番(望月暉作君) 私はこゝ当初予算の審議に当りましては、はじめかうのことを追加予算にわたるかも知れませんが要するに市——産業の振興があつてこそ館山市の発展が期せらるゝのでございすにもかかわらず、移転的経費という名前のもに大体こゝ産業面のほとんど予算を削除したと、この点について移転的経費という説明は先般総務課長から聞きまゝだが、なんら違つてやゝないかと考えてゐる。産業——ほとんど、その他費用でもつて——ということはない。

んか、自治庁の方からの話あるいは県や地方課が知りませんが、そういったものや打合わせうときに移転的経費の内容が違つてやゝないか、どうも産業経済費を削

るという点については私は先般聞きまいた話ですと
ごもつとも考えられますが、どう考えてみましても不
要なものと思うんです。なお

状をつぶさに話して

移転的経費は大

体振興費であります。

この振興費を削るという方は、

おかしいと思つて地方課

この点を重ねて

お伺いします。

テープ十五 十六号

實際う支出にあたっては承認を得たもう以外には出せないということも議会で了承してもらうか。どちらの方法をとるということでございまして、こちらとしましては、そうとおり、時間的にさらに検討して詳細な正確なものを計上するということができる。せんので、今回うような措置をとったわけでございします。

。十六番(脇田順一君) 先ほど市長さんう御説明によりまして九百万円か一千万円くらい

明がありまして、これを仔細に考えてみると、ちよつと錯覚に陥りやすいような

移転的経費がいけない。従って

って行く。そして

ものを

をするんだというのでありまするから

たなら

ダム工事をするとする。従来はそこに三十万円なら三十万円、市の方から二万を仰ぎ二十万円を県から仰ぎ、地えから五十万円出して仕事をしておったのが全部、市の方に受け入れて、そこに百万円ありまして、本当に市がハラを痛めるのは、わずかに三十万円であつて、いまう例で申しますと三十万円になりまして、実際ににおいて、ではないと思つて、

現実には、

そうすると今までの

農村の方の振興方面に注がれた経費の額は、七百万円も削減をしなから、なお、三百万円に市はとどめようという、そして、一千万円の額面をここに表示して、我々は、その錯覚に陥らむるという結果になると思つて、

かえって三百万円、市が出さないであつて、地元の費用

う——寄付金——

う形で受け入れるならば——

一千万円という

農村の振興方面におきまして

は従来う二分の一か費用は出てないという結論になるんで
ありまして決して農村に非常な大奮発を市長さんが打
さったという結果にはならないんであります。私もたびたび
このことを質問いたしまして質問される方もいゝになつた
であります。うが、我々の方もいゝさかいや気がさして参り
ました。要は私は市長さん行政の感覚をもっと健全に
していただきたいというだけで、当然私は農村地区から出
ておる人で——
農業に肩を持つもので
はありません。

市会議員であるが故に市政全般にわたって行政そのも
うが——決して私は農民の代理をここで努めている
ではないのです。まして私が前半生の行政官の体験

からいたします。というところ、市長さんの行政的感覚は、あやういところがあります。私は忠告をいたしておる。であります。その点、市長さん。

また我

々は錯覚に陥るような、そういう額面を掲げて――

わけわからん。であります。要するに、

市長さんが健全な行政的感覚を持たぬ。そして、そのころ、農村を忘れたい。いた。た。く。と。う。こ。と。で、私はこの問題について質問を打ち切りたいと思います。

市長（田村利男君）先ほどな。言葉が足りません。た。た。農産統計課長と果へ持つて行く前に、予算に一度編成いたしま。た。額。う。ち。単独予算に直せる予算が。この。と。お。り。だ。と。う。い。う。意。味。で。こ。ざ。い。ま。し。て。な。お。収。入。に。余。裕。が。あ。り。ま。た。赤字解消して、余裕がある場合は、先ほど飯田議員に

申し上げたとおり追加予算でもなんでも必要に応じてなお
出せるものならば出してあげる。こういうわけでございますが
決してこの三百万円・九百万円をもって全部農村経済を
打ち切るといふようなことは決して考えておりませんので
念のためお知らせします。

議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。

二十七番（伊勢仙之助君）先ほど飯田議員の質問の答弁の
中に学校増築に関する見通しという問題がありま
たうてありますが、これはこの議会当初におきまして
起債を起す場合見通しについてどうかという質問が
出た場合、那古と館山一中はもうだめだというふうに一応
言われたんであります。いまになりますと、できそうだと
いうふうに解釈がとれるんですが、その点について――

の発言といまうお答えと多少違っています

が、だめだけれども努力してなんとか

もうい

たいという考え方に変わってきたところ、ように解釈してよろしいですか。その点について。

市長（田村利男君）それは当初私が申し上げましたとおりでございまして、といいますのは一中と那古小学校の問題ですが、一人当り、何坪という基準を十分まかなくてある。こういうわけでございまして、とくに――

両方の学校に差し上げたい。こういうふうな――と申しますか、こちらから嘆願に行つた結果ではあります。――から三百万円――

（「義長休憩」と呼ぶ者あり）

義長（石井潔君）――しばらく休憩いたします。

議長（石井潔君）再開いたします。

三十四番（鳴貫杜作君）私う先ほどの質問は委員会へ回ってかうでもよろしゅうございますが、その前にひとつお尋ねしておきたいことは、地方交付税はいくらきておるか、昨年度いくらきておるかということについてひとつお知らせ願いたい。

市長（田村利男君）お答えいたします。昨年度当初予算におきましては、地方交付税は三十年度におきまして二千八百万円を見込んだのでございます。ごく最近う決定報告されたものは、いろいろな事情にありますけれども結論において三千九百五十万円、一千百万ほど余計きております。去年三千九百万円きまりましたが、ことしは金額そうままとおろすことはとれるが、一応三千二百万と

予想をいたわけてございます。このほかに特別交付税というがあります。ことしは県の指令で特別交付税は予算に盛るなという指令がきておりますので、一応予算には見込まなかったわけでございます。

三十四番(嶋貫杜作君) 見込む見込まないは結構でございますが、その額だけをちっとお知らせいただきたい。市長(田村利男君) 去年は三百万見込んだわけでございますが、それが四百三十万きまりました。

議長(石井潔君) 他に御質疑ございますか。

十六番(脇田順一君) 保育園の食糧費ですが、館野九重は生徒一人に対して一日二月、純真は六月五十銭、非常な差があります。どういうわけですか。

福祉事務所長(長谷川広治君) お答え申し上げます。純真保育園と他の保育園とで差異でございますが、

館野九重においては現在おやつ程度の給食でございます。純真保育園は完全給食と申しますか、七月十銭で大体パンとミルクを支給してある。こういうことう差異でございます。

十六番(脇田順一君) 私う方もしからは給食をやってくいますか。(笑声)

福祉事務所長(長谷川広治君) 現在うところ館野九重には給食の設備もございませんので。(笑声)

十六番(脇田順一君) 設備がありまうたら、やってくいますね。

福祉事務所長(長谷川広治君) にすれば

よいと思ひます。

十五番(遠山ヨネ子君) 私う聞きたいことは社会および労働のところで五項です。ほかの予算は国庫やなんかくるお金が多いようて、こゝは国庫からきていないんです。

なんにも補助金が身体障害者にきていないんですか。
 (「きていますよ」と呼ぶ者あり) あっきています。
 どれだけの人に出ているんですか。またどういう人数
 があるんですか。

福祉事務所長(長谷川広治君) 答え申し上げます。

身体障害者手帳を持っており方が百九十名程度ござ
 います。このうち予算は国から県の方へきまして、県
 から各町村に対するワケが通知がくるわけですが、三十
 年度は三万程度ワケでございます。で本年度大体
 四万ぐらいに増額してもらつて予定で四万計上したわけで
 ございます。この対象の人員としては十名程度を見込
 んでおります。

十五番(遠山三子君) 身体障害というものは、どの程度をさす
 んですか。十人といいますと、この人たちが特別に――

できない程度う障害を受ける人をいつてゐるんですか。

福祉事務所長（長谷川広治君）御質問の内容がはっきりいませ
んけれども、障害う程度でございますすが、こゝは身体障害
者が義足、義手、あるいは補聴器を購入するとか、こういった
場合に対する補助でございます。生活とか、そういったもの
う補助ではございせん。

十五番（遠山ヨネ子君）身体が直るか直らないか、診察してもら
つてある治療を受けて、完全に近い体になるような予算サ
がどうして市では出ないか。

福祉事務所長（長谷川広治君）どういふケースか。私にははっきりと
わかりませんが、身体障害者う相談所がございますので
そう相談所を経由して参りまゝたものは予算の範囲
内で現在まで実施しております。

十五番（遠山ヨネ子君）——ではそういった費用を出して

ある程度完全な人に近いようにする。費用が出ているうちにこういうところへ、館山市は盛れないんですか。こゝだと器具の補助ですが、館山市ではそういった完全人に近いように治ゆをする費用がぬけないんですか。できないんですか。議長（石井潔君）質問の御趣旨をもっと徹底いたして、こちらではわからないようですから。

十五番（遠山ヨネ子君）新聞でみたくてございすけど自分で直して義足をつけて完全に治ゆできる費用がないんで、それをなんか大きい病院へ行って直してもらって、そうして完全に近くなったという新崩をみた直後にちやうど婦人会で――

講習をしまして、たときにそこへ来た女の人が足が使えないけど、こゝをみてもう費用がないので、市役所でそれをもらえないかと聞かれました。福祉事務所へあつせんーたんですけれど、そういうことがないとお

— 思ったように記憶しておりますけど、どうしてそういう費用が
ここに入らないうてはう。

・福祉事務所長(長谷川広治君) 私の方では予算のワケさえ
獲得できれば、今のお話の程度のもうてあれば扶助でき
と考えておりますが、果からウワケが昨年度三万円と決
められておりますので、希望者全部に対して実施する
わけには参りません。

・十五番(遠山ヨネ子君) ですから、館山市でぜひそういう予算を
国家と果からウをめていて、ないで自主的に予算を組んで
いただきたいと希望します。

・十八番(小沢太助君) 支出面に関係してくる問題であります
が、助役さんにお伺いします。先般、私は漁港修築の負担
金の問題を

— 昨日わかったのでござ
います。が、第三種漁港の国庫補助金が六割になった

から地元の負担が軽くなるだろうと思つておつたのであり
りますすが、ところが県では国庫の補助金の六割を
とつて県の財政が困難だから県費の負担は一割五分
で地元は二割五分ということをいつてゐるやうであります。
そして県會議員の一部の人にお伺いするとこゝろで決定
してゐないが県もさういう考へであるやうで――

できむいというふうなことを聞いたのであります。二月の二十
九日に千葉県漁業港協会が執行委員が中央へ陳情
に行つたときに――
三十一年度に――

おきまして国庫の補助金を六割に――たということは地
方財政が困難である上に、この港の修築を促進するに
はどうしても政府――
いけないという考へ――

のもとに国家の支出金がふえたやうでござります。――かし
その恩典は県だけで地元はさういう恩典がないということ

はむしろこの漁港修築を

もつぱら

起債にあおいでいる。——かも要求額が満たさぬことは一回もない。果から

——そういう実情であ

ります。初期の目的を達するには相当額地元に負担が重くなる。——かも三種漁港におきま——ては農林大臣の委任を受けて知事の管理下に

——そういう

ふうなことでいいかどうか。私はこの点について果考えている処置に対しては断固反対を——たいと思つてあります。場合によつたら本議会が反対議決も必要ではなからうかと思ひますので、今議会中に市長さん、助役さんに、その点御考慮願ひたい。

() ただいま十八番議員からの質問と申しますか、要望でございますか。この点につきま——てはまだ詳細のことを聞いておりません。ただいま十八番議員さん

の申さぬまゝに、国が補助金を多くするということは、裏に地方の負担を軽くするという意味があると考えます。で、そうために今の話でいえば、県だけが負担率を減らすということとは、理に合わないように考えますが、その間の事情につきまゝでは、まだよく承知しております。で、ぜひひとつ、県の方にも打ち合わせをまゝて、なるべくそうして、地元の負担が過重にならないように研究し、要望したいと思います。

。二十七番（伊勢仙之助君）第一点、体育の施設について、市長にお尋ねいたします。御承知のように、館山市は三十年度におきまゝて、全国表彰を受けておる。もちろん、これは、前市長さんが長い間、館山市の体育というものに非常に熱意を示されて、その結果が今日う——というように、栄誉を受けられてあります。その点から

考えてみますと、一部に市営野球場がないのが不便だから困る。地元の現在の球場を市営にして各大学が冬季練習あるいはプロノンプロの公式戦をやるような設備をしてもらったらどうか、こういう考え方が非常にあります。

体育施設を完備するということは、青少年の不良化防止健全なる体育行政の面で非常に重要なことだと思ひまして、現在公民館に使つておる家屋を将来柔剣道とか、いろいろ構想もあるうと思ひますが、この点について市長さんや体育施設に対して将来どうようにして行くかというふうなお考えを承りたいと思ひます。

第二点といたしまして、体育関係のいわゆる移転的経費というふうな形の上にほとんど全部切られておるといふやうな実情であります。が、實際問題として果下で各種の対抗競技とか、団体関係とかいろいろ移転

的経費に類さないようなものもあると思いますが、こ
らう点について十分考慮するとううふうなお考えがあり
ますか、どうか、その点について御回答願います。

市長（田村利男君）体育費の二十五万か三万ですか。

金額移転的経費の名のもとに削ったと、一かーながらあ
くまで青少年の精神、身体所方う面う健全を図る
意味からいましても、体育の重要さは皆さん御承知の
とおりでありますので、いずか近い将来追加予算など
をもちまして、移転的経費でも出せるワケはあるわけで
ございますので、その中へでも盛って御要望に応えたい
と考えております。

また体育施設でござりますが、館
山市におきましては各都市におきますような総合グラ
ウンド、野球、陸上競技、グラウンドもございせんので、
青少年運動振興の非常に多い当市としまして、遺

憾に存ずる次才であります。

そのため池貝う運動場、あるいはごく最近でございますが、あるひとつ市の仕事によりまして池貝う裏側う湊川べりを二三日前に調査したわけでございますが、そこにも数干町歩という空地といえますが、池貝う所有地らを見せてありますので、将来そういうところが理想的な運動場の候補地になるのではないかと、こういうふうに考えております。

しかし新設ということになりますと、方を教える予算でございますので、議会ともっとくり相談いたしまして、この実現に努めたいと思っている次才でございます。教育委員会う建物でございますが、この建物う体育面う払い下げと申しますか、体育方面に使用するという面は確かに館山体育協会ううち、とくに剣道柔道弓道、この三通り連名をもって、市長あて払い下げう使用法の陳

情がきておるわけでございますが、こゝとても市庁建物でございますので、すぐさまこゝを柔剣道道場に改造して使つてよろしいという言明もできませんが、将来千葉銀行の建物あるいは現在市役所の建物内で十分教育委員会廃止後における事務がまかなえるというような場合には、こゝも改めて議会等と相談いたしまして、できるならば、青少年の希望を満たしてやりたいと思ふわけでございます。今、ただちにこの席でどうこうするというお答えができないのを遺憾に思っている次第でございます。

・三十二番(望月暉作君) 教育委員のことは、私は前々回、議会におきまして北条小学校の講堂の破損修理の問題を要望しまして、早速やるかどうかとき返事をされたが、今日みますと、いまだ予算化しておりませんが、善処する

とか、やりますという言葉がある以上、それはやってもうわなきや困る。なお、破損修理なんかの場合につきましても、だんだん改りつぱなしにしておきますと、費用もかかるし、
に思ふんであります。これにつきまして、市長、教育長から
う御返事を願いたいと思います。

次にこの予算の内容でございしますが、ハナハ六ページ、公民館費のうち職員給、主事十一級ですが、公民館の職員として、
現在どなたがやっておりますか、それも

御答弁願います。

市長（田村利男君）北条小学校の講堂の件についてでござい
ますが、同じようなことが昨年は小学校の講堂についていえる
わけでございまして、とくに北条小学校におきましては、公民館
のない現在におきましては、二中講堂と一緒に市の人を集
まる場所として用いております。関係上、市長ほど完全

なもうにしたい所存でございますが、いずれに——までも
講堂は第二義的という鉄則がございます。簡単
に予算化することもできませんが、北条小学校の公民館
兼用という特殊性ということ、またただいま聞きますと
北条小学校におきまして、地元負担寄付金や募集計画
実行中であることも聞いております。両者考え合わせ
まして、御希望に添うように努力いたします。次でござい
ます。なお、公民館主事の制度につきましては、教育長の方から
お答えいたします。

・教育長（工藤和平君）お答え申し上げます。公民館の主事は
現在松本社会教育課長がやっております。

・十七番（鈴木市蔵君）土木費ですが、これに関連して第一税
務課長さんに願います。館山市におきまして、固定資産
税というのに対しては我々もよくこれに対しては、——

しておるうでございしますが、その場合にいままでこの間、豊房あたりから――

がきておって――

その場合にこれに対して、分立登記がしてないために――

固定資産税がかかっております。同時にこの

問題は、館山市一般にこういうことが現在あって、こういうものを第一課の課長さんに話をする。土木課の方で管轄だ。土木課の方へ行くとこれは――

どこへ持っていくか

わからない問題であって、この問題に関して、市としてはもううものはもう、そうしてこれを分立登記をして立派な固定資産税をとるという気持ちがありますか。それとも――

――この点を第一課の課長でもよし、土木課長でもよし、ひとつそのつもりでおるといふことをはつきり、

建設課長（新井重助君）お答え申します。この点につきましては、過日お話は承ったんであります。これは古い時代に道路

ます。といひますのは、いろいろ登記上り問題がからみまゐるために、共有土地に対して半分以上登記ができていないと、いろいろ、そういう障害がございますために、従来通り――

――になつてゐる。――カー、これも實際問題としては、お気の毒な状態が多いのでございまして、で、今、建設課長から申し上げまゝなように申請していただきたいと思ひます。私の方としましては、細かいことはわかりませんが、本人が申し出を待つより、ほか仕方がないと思ひつておりますが、申し出があればいろいろ善処したいと思ひつております。

なお、ただいまう十七番さんの豊房の問題ですが、これは豊房の役場時代の関係者に聞きますと、村の方へ申し込みがあつたと。――かしこめは、農地関係があつて、ただちに道路には、まずいから、果う了解を得てから、農業委員会

にかけてから許可を得てはじめて道路——にという
 役場の方から通知があつたにもかかわらず、本人たちはそんな面倒くさいもんあるものか、あつちやえとこういうふうな順序であうとそこに——があつたやうでございます
 ので、これも先日お話——したので、詳しい図面等も地元にございまゝたので、それを参考にして調査中でございますので、多分免除するように善処する考えでござい
 ます。

・十七番(鈴木市蔵君) こういう問題は、そもそも——

があると思いますし、ひとつこの問題は早速やつていただ
 きたい——どうもこの問題は——

として、それをやる人がない。こういうことを聞いておるん
 ですが、土木課長さんに伺いますが、本当に人が足りないた
 めに、それはないのか、技術的にそれはないのか、その点をお伺いし

たい。

建設課長(新井重助君)お答えいたします。このことにつきまゝして
私の方といたしましては登記をやっている課員が一人でござい
まして毎年やります。公共事業の方で用地の買収を先に
やっております。あとから出まゝに現在う豊房の方はよく
調べまして農地委員会その他許可が得らるる場合に限
り、ぜひやることにいたします。

二十九番(黒川佐太郎君)当市で市庁舎も大分老朽でございま
して他市にみられないような姿になっておりますが、これを
改築するような気持があるや否や、私思ひますに事務の
能率においてはもちろん万一災害等の場合に職員に
事故が起つたならば大きな社会問題となる。これは赤字
克服の際にこんなことをいうなという意見もあるかも知いま
せんが、一かしにあるものは決してここでそうために起債

を起ころても当然のことだという了解が得らるものと
信ずるものであります。第二点に職員の給与の凸凹が
あるやに聞いております。具体的に申し上げるならば
旧市においては上に厚く下に薄い。そうして高等学校
を卒業して結婚適令期になつてもサラリーが低いため
に結婚ができないというやうなことを聞いております。

もちろん市でもこれを是正しつつあるとは聞いております
が、決して満足するべきもんじやないというやうなことを聞
いておりますので、これを抜本的にやる意思があるか、ないか。
実際、若い人たちは優秀なものかみえますが、こゝらう
人を事務意欲を低下させるということとは将来の市運営
について大きなマイナスとなるんじゃないか。こういうふう
に考へますので、お尋ねする次でございします。次にお聞きし
たいことは、教育費でございしますが、教育費の金予算に

対するパーセンテージニセ、これは全国二三パーセントに比較いたしますと、一応大きな比率になっております。さらにいったん目を義務教育費に移しますと、僅々二〇パーセントでございます。まして、全国に比較し、ましてまた県下十七市に比較しましても、最低に控えております。

もちろん比率云々をもって私は申し上げるのではなく、絶対値が足りない。新市におきましては、需用費が半減してゐるということと、どこへ参りまして、校長あるいは職員にその窮状を訴えらるゝのであります。

いつか、この席上で教育長や御答弁ではなくちやならないものは求めらるゝが、ほゝ、もうまでには行かないというようなお言葉でしたが、御案内のように現在、教育は視聴覚教育でございます。我々子供ときうように――
ばできるという教育じゃないんであります。おろずから教育

は非常に予算を要求するのであります。その点につきま

しては、私が調べたところによりますと、需用費につきまゝては

小学校では、当市は二千七百学級 — 二万七

千四百円でございまして — 中学校において

もしかり。学校の運営はなんとしても、予算の面では

需用費が中心だろうと思つてありまして、これを認め

願つてゐるか、どうお考えになつてゐるかということについてお

尋ねます。

次にお尋ねすることは、ただ今、二十七番議員さんが、御質問

いたしまゝグラウンドの問題でございしますが、野球場

その他の問題でございしますが、私の考え方といつたしまゝ

では、総合グラウンドを、こゝから図書館、こゝを国家的な仕

事として、市長会などでとり上げまして、全国各市に国家

として設立するとか、あるいは、高度の補助によって、全市

にこゝを設置する行き方で市長は全国市長会にそのことを諮る御意思があるかないかというところをお尋ねします。

市長(田村利男君) 庁舎の問題でございますが、なるほど現在、庁舎ではおそろく日本一といつても過言でないくらい、老朽庁舎でございます。その上、なかに事務をとつておる事務吏員、健康上におよぼす影響は——状態であります。しかしながら、ただいま赤字克服を第一線に掲げておりまする館山市といたしまして、ただちに庁舎新築ということは考えられません。一応、この情勢で行けば二年後には赤字解消ということができます。そのときに改めて新庁舎建築というのを考えたいと思つてゐるわけでございます。次に人件費の問題でございますが、こゝは合併以来、九一年と六、七ヵ月でございますが、この間でこゝは是正して参りました。大体四五年

かかれば是正できるといふ予定でありまゝだが思つたまゝ
 順調に参りまして最近やつとでこぼこが直つて参りまゝ
 だがなおこんごでこぼこにつまみして是正する考えでござ
 います。なお詳しくは課長より説明します。教育費とく
 に義務教育費・需用費が少くないというお叱りでございます。
 誠にそう通りでございます。――カーながら市長うたないまゝ
 心境といたしまゝではまず、雨がもる校舎を雨がもらない校
 舎にするということが先決であらうと思ひまゝて、雨がもらない
 ーかも、需用費うたつぷりな教育費。こゝは、一〇〇パーセント
 望まゝいわけでございます。まず、こゝ一二年におきまゝて
 は、雨のもらない老朽校舎を整備するといふことに眼目をお
 きまゝたので、需用費う面は、必然然軽視さかるように見
 受けられますが、こゝとても永久にゐるものでございませ
 んので、一応校舎の完備といふことになりまゝすれば、需用

費もたつぷり見込まれると存じます。なお詳しくは教育委員会にお任せ申し上げます。

総合グラウンドの設置、これはもつとも望ましいことでありまして、その根底をなすものはすなわち国体や各所持回りと、いうことでありまして、これがすでに福井で行われ、北海道で行われ、福岡で行われ、またことしは神戸、兵庫果で行われ、来年静岡で行われ、やうとておりますが、最近の情勢ではこゝ持回りすることによつて国家の費用で各市ごとに理想的な総合グラウンドを建てることも必要であるが、やはり日本の全体からみて、グラウンドはこゝ辺で打ち切つて、東京と大阪二大都市で隔年持回りでやつた方がよろしいと、いうような議案が空氣になりまして、こんど神戸、静岡もあるいは、最後にして、東京、大阪、あるいは京都、ということになるのではないかと思います。従いまして、国家の費用で終

合グラウンドを整備するという案はもつとも望ましいことであ
りますけれども、またそれは実現いかかっていたわけで
ございますが、一応国家の考えによって御破算になった
わけでございます。従いまして私たちはなんとか赤字を

解消し、赤字がある最中におきましても自力をもつてこ
う施設をつくらなければならぬ破目になったわけでござ
います。その点申し上げます。

() お答え申し上げます。ただいま市長さん
の方からお答え申し上げられましたとおり、委員会とい
うまでも、教育予算につきましても、正常な授業が

いたしますことは教育の実績をあげ
る上に一番大きなものであると考えまします。こゝで不正
授業を一日も早く解消しようというが、こゝで予算が
とつた大きな私たちが考えであります。

そういうことも一応頭にふまえて、今回といたしましては、確
かにお説のとなり、果下市と比して決いていい方だ
はありませんことはお説のとなりでございますけれども、一応
この線であつて行こうというような考え方でございますので
申し上げます。

二十九番(黒川佐太郎君) ただいま御答弁で了解いたし
ました。雨りもうない程度で校舎にするとつまり、正
常な学校に復帰といえますか、できるといふのはいつごろ
になる見込みでございますか、それをお尋ねいたします。

() お答え申し上げます。 一、頃とはつきり
申し上げかねますが、この数年間、学級増、生徒数、問
題、それを調査してございます。それから現在、校舎
の経過年数、実情を調査いたしまして、双方の資料
をくらみ合わせまして、計画的に市と当局と相談の上、

ぜひ早くこれを解消いたしたいと存じております。

秘書課長（山谷潤祖君）人件費の給料の調整につきま
て、御説明申し上げます。合併当時は旧市

職員、給料の低いということは一

であります。その後数回にわたります。

調整いたしまして結果、現在では結婚適令期は何
かわかりませんが、満二十ニギ以下は相当低いも
うございます。これは合併後におきまして、新規採用
も、もうあります。もう一つ、初任給は低く、採用
して、その成績によって昇給させた方が、いい
じゃないか。こういう方針のもとに

それよりも、二十ニギ以上、大体四十ニギくら
いまでは、過去経験年数、学歴等から見た場合
には、基準より、下回っているものが割合に
少ないのであります。

こゝ調整にあたりましてはここに一昨年より資料は持
きておりませんが、昨年三十年より資料は持ってきてお
りますので、二三例を申し上げますと、旧市より職員にお
きましてとくに低かったものは、一月一日に昇給をさせ、四月
には、雇から主事より昇給試験を行いまして、そう試験に
合格したものを対しては四月に三号より昇給させ、こゝに合格
しなかったものには一号より昇給させ、なお七月には、総員に對
して二号を昇給させ、ことし一月にわたる六カ月より定期
昇給をさせました。こんな状態で相当下級より職員に對し
ては、調整ができたのでございます。こゝを昇給させるに
あたりましては、限られた予算より範囲内でやらなければな
らないのでありますので、自然昇給より上り方より職員より
昇給は抑えらるることになります。現在――

――が、ありますが、こゝも追々調整、現在調整中

一つありますので、あと二、三年の間にはできるだろうと思ひます。

（「休憩わがいます」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）——しばらく休憩いたします。

議長（石井潔君）休憩前に引き続いて会議を開きます。

二十二番（望月暉作君）産業経消費につきまゝて殊に農村予算につきまゝて一般質問の移転的経費の名を藉借して——そして細かい点については、うちほど各款

説明うときに質問をするから保留するということをお願い。また、今までのいろいろな御説明で大体、その辺は了といたしますが、（さけ）移転的経費ということで大削減されて行く費用のうちに社会教育費があるようにござい

ございます。

社会教育費から非常に大きい数字が削減されたようになって
ございますが、これとてこうまよに改置するには余リにも削
減の度が大きいうちに考えられます。こんご追加予算
によつて、こゝ社会教育を等閑視するということなことが
ないやうに——
意思があるかどうか。ちよ
つとお答え願います。

・市長(田村利男君)いろいろな問題がありますが、体育の問
題といふ婦人会の問題といふ、あるいは一般社会教育と
いふ、主としてただいまの状態で、移転的経費でございます。
——かゝるから例えて申し上げますと——
行われ

まする分科会より費用は二十万円か二十五万円かあつたのを
削つたのでございますが、従来——団体に補助——まゝで

——団体が主催者となつて行ふという建前をとつており

まゝたゞ、移転的経費でございしますが、これもよく
実情を調査しまして、市役所独自の立場で行うという
ような形でやればできるんじゃないかと思ひます。

その他、いろいろ社会教育の予算もいちいち申し上げら
れませんが、なるべく市民皆さんが福祉増進の恩恵を
受けられるよう努力するつもりでございします。

十三番(鈴木孝君)消防関係で市長さんにお尋ねしますが、二
十九年の九月から、昨年の四月までに消防団が統合さ
れたのであります。合計すると、団員が二千四百名以内か
と記憶しておりますが、

現在、は五百八十八

名と思ひます。二十四分団が縮小されたんであります。こ
の統合に当りまして、この条件として、市

司令

官の設置、貯水池の増設、器具機械の増強を条件と
してあります。――

四十数回かと、

記憶してあります。その都度

助役さんと課長

さんが出席して

打切り補助金を

—— こんど ——

という問題でなくなったんであり

ますが、これを——

—— にしてあるにかかわらず、こうして

あつたがほとんどないということがひとつ。それから市長さん

にお伺いしたんですが、消防協会が補助金がいままで二十何

万かあったと思います。そういう協会へ納める金が相当の

金を納めておたんであります。こんど消防活動上大

きな支障があると思います。全国火災予防週間、県

火災予防週間指示、それから場合にこれをやるが、行わな

いか、行うとすればこの費用が捻出はどうするか、この

二点を伺いたいと思っております。それからこれは要望

と御意見を伺いたいであります。消防署の現在員

—— といいますが、——

七名が基

準であると聞いておりますが、今市には消防ポンプが四台、小型が二台あるんであります。自動車だけでも常時二十八名、見張と電話関係、通信に当ります。勤務者が必要なくて三十名ないし三十一二名、現行では十五名であります。操作上無理があると思ひますが、この——を拡充する意思があるかどうか、この三点をお伺いいたします。

市長（田村利男君）最初、若自警団が補助の問題ですが、これは当然、市が消防署、分遣所あるいは分駐所という名のもとに市がやらなければいけないような仕事を土地、自警団にお任せしてゐるということでありまして、いかにも、火事という大きな問題を常に取り扱つていて下さる団体でありますので、なんとか考慮、道を考えたいと、最悪の場合には二百万円は、移転的経費で使つてもいいとい

ラフクがございますので、そのうちにでも入札で出せるんじゃないかと解釈しております。

それから二十五万円、消防協会費でございますが、これも同様でございまして、いろんな面を消防に協力して下さる団体であります。―― ↓ 冗費もないでございまして、うが、なお

一層冗費を節約していただきまして、御協力申し上げたいと存ずる次第でございます。次に消防署員、人員増加の問題ですが、今勤務している職員は七人、酷使しているわけではございますが、いましばらくこの線をもっていただきまして、いざ、近いうち、赤字解消、本当に目安がつきまうた場合には、御趣旨に添いたいと存ずる次第でございます。

十三番(鈴木孝君) 市長さんは――

もって行きたい

という御意見でありますので、一応納得いたしますが、できることならば、消防団は非常に努めることが多くて、そ

れに報へらるるものが少ないであります。で、ぜひこれは
確約ぐらゐにしていただきたいと、第一第二問に対しては要望
するものであります。どうかよろしくお願いします。

二十一番（松本藤太郎君）私は個々のことでなく、終体的な点に
ついて申し上げたいと思います。市長さんがいかに館山
の赤字財源——一日も早く返したいという熱意が

あることは、市長さん言葉で聞くまでもなく、三十一年度
の予算書をみれば、これははっきりしておる。——カー、これが
いかに、市民のためになることであるという国の信念から

わいわいは——

点を説明して行きたいと私は思うんであります。これは
今までずっと審議を聞いており
ま——たが了解できなかった点、二点でございます。

また了解できない点も二三点ございます。それで、そかに

意見を付け加えて、そうして市長さんへ答弁をもちました。そう
お答えによつては、動議を提出いたしたいと考へております。
了解ができたという点は、鳴賀議員が質問いたしまして
また、二十七番議員も――だが、三十一年度において――

――を行うかどうか、これに対して本年度は行わないで
きるだけ、――
――その点は了解をいたしまし
た。それからいよいよ、移転的経費、これについて当初予算
でもって――
――その後で追加して――

――いうことなんです。――
――は、果たしてできるかどうかという十四番議員から質問に
対して、これもやれるというは、つきりとした確信をみたうで
――
――その二点は了解をいたしまして――

了解ができない点と申しますのは、これは脇田議員から
またと思ひますが、交際費、あるいは予備費、こういうものを

前年度から比較した場合にわずかに———こう

いうものでもって、果たして六百九十万も———それで

よろうとしてもどういふことをやるんだということがあつたんで

それに關係して十四番議員から一体どういふのかくし

財源が———将来入ってくるスぺー

ア財源、こゝろ歳入は一体どのくらい入ってくる。見込んだと

十四番議員から伺ったときに———これでは

当局として執行者としてなかなかこゝろは———でもって

発言したということとは重大なことではございますので、はっ

きりとした確信が数字にあつてはないうておつて、さう

くないと思ふんですが、私に考え方では、こゝろは大体、

滞納繰越見込み、こゝろについても、百六十五万八千五百

円ですが、こゝろも、いずこ、三百万ぐらいあるんじゃないか

それから、地方交付税も三千二百万あけてありますすが、

これも二パーセント交付税率が上がつてゐる。従つてこの点ももつと上がりやうないか。それから特別交付金もいろいろ

使い方によつて――

知りませんが、これも六百万

ぐらい上りはしないか。という考え方で大体二千万くらいというところなんです。スぺーア財源が入ってくる――

まあ一千数百万のスぺーア財源がくるかも知れません。

ここでひとつ産経費を六百九十万も削つたんだから、これに對して金額は私はいいせんが、一割ない――一割五分引きの五百万から五百五十万程度のもうは産経費へ出す。金額だけ市長さんおつちまつていないんで出すといつてゐる。

大体その線をメドにして出すというひとつ御答弁が得られれば、一応不満ではありますけれども了解を――たいと考えるのであります。そう――を市長さんにひとつうたてたい。

市長（田村利男君）お答え申し上げます。

削減はいたしません。産経費の合計九百万円、

—— こともつてもあります。私はこれ以上、

さらに仕事をしたいという点を申し上げているのでございま

して先ほど鳴賀議員からいくらあるかと言われたんですが

先ほどお答えしたと思うんですが、結局、八百万前後のもの

は確実に予想をできる財源があるわけではございまして

いかし、これをあるからといって全部使ってしまうという

ことは赤字克服の信念に反します。で、できるだけ

節約してできるだけ事業をふるす。ただいま松本議員、

の「五パーセント」—— 節約せよという言葉で

ございます。が、節約は申し上げられません。が、なるべく

御趣旨に添いたいという所存でございます。

二十一番（松本藤太郎君）節約はできないということになると

わずか、四五十万か、二十万か———ですから、とにかく産経
費を———少なくとも五百万という金は出せると、ま

た移転的経費という　　必ず確信があるか、そ

う点をひとつ、———必ずということではっきりと———た

（「確約をした方がいいわ」と呼ぶ者あり）

・市長（田村利男君）申上げます。了解願えば幸いです。ご
います。産経費五百万円くらいはできるメドがあります
ので御了承願います。

・二十一番（松本藤太郎君）産経費五百万円、このほかに———

———もござりまするで、そちら方（も）やはり———

に、よって少しでもやっていたきたい。ここでひとつ議事
進行上、動議を提出いたしますが、その確認によって———

———特別委員会を設置して、その中をもって———

さらに固く確約を——してもらいたい。本会議で——

特別委員会で——

この確約を——

十四番（飯田義男君）ただいま、松本議員より——

市長

が確約をいたしました。私は市長の誠意に感謝いたします。——

市長さん——

考えられません。なぜならばこの予算をみますと、非常に——

いまいちいち例をあげるのもどうかと思います。が、まだ——

あるいは——

にもかかわらず——

——そうことはいまさら申し上げるまでもありません。とにかく、市長さんが確約を——

追加予算で組むということになるん

でしうが、こゝはやはり議會う

市長さん、確約だけでは、こゝ問題は解決しない。三つう不安をいだくわけでございます。こゝ点を一応私は懸念をいたしておりますので、あくまでも、

がこゝを絶対にそうとやりで間違いないということで

——私としてはまだ、——
一応皆さん

質問はこゝで打ち切りまして次へと進行することは、私は結構でございしますが、その点

議長（石井潔君）お諮りいたします。

（「議長十九番」と呼ぶ者あり）

二十三番（高橋又治君）ただいま二十一番議員の動議に賛成するであります。が、ちつと——私はお尋ね——

たいと思います。お許し願いたいと思います。

議長（石井潔君）申し上げます。質疑打ち切り、動議が出
ておりますので、動議を先にお諮りしたいと思ひます。
いま二十一番議員から動議が出ておりますが、二十一番
議員より御了解の上でなお二十三番議員より質問を
許したいと思ひます。

（結構でございます」と呼ぶ者あり）

二十三番（高橋文治君）税務一課長さんに固定資産税の家
屋の評価につきまゝて御意見を承りたいと思ひます。
先般家屋の評価につきまゝては旧市と旧村とが評
価の均衡を図るために、

その結果九重地区ならびに館野地区は、

これにつきましては先般脇田議員と小沢西議員が御
質問さし、まゝて市当局より御答弁として、市と農
村の評価の算定基礎の格差を二五パーセントとみておら

ゆるという御答弁でございまして、たが、例えば銀座通り

七五パーセント評価したようではございしますが、

これは、市当局の考え方が少し無理じゃなかろうかと思
うんです。

私は銀座通り

家屋が

農村の方

は、

再評価をし直すということは、無理

でございしますが、

評価を

と思うが

であります。

決山あるうであります。大いた

値打ちがあるものはないんであります。固定資産税の

家屋

昨年は百分の十六、本年は百分の

一・五で実際に収入は昨年より三百五十六万

昨年の

三百五十万くら

い

その点につきまして課長さんの御

意見を承りたいと思つてあります。

・税務第一課長(黒瀬芳雄君)ただいま二十三番さんからの御意見でございしますが、当事者といたしまゝでは、館野地区、九重地区をとくに上げたとか、そういう問題は調査に當つてゐておりませんですから、その点はどうぞ誤解のないようにお願ひいたします。それから銀座通りと農村との差額でございしますが、その点につきまゝでは、先日細かい点をお話申し上げなかつたかも知れませんが、大体本年度の標準年度におきまゝで、評価基準が自治庁から示されまゝで、それで、それにつきまゝで土地の賃、貸、賃、格、その他、等級によりまゝで、何月から何月までの等級は何月から何月までは何パーセント減、そういう基準が示されまゝのために、実際は個別に当りまゝでは、なおもそういう――
――が思われくないよう、市街地と比べて、あるいは、

そういう点もあるかも知れませんが、私の方といたしま
ーでは、十分、そういう点は細かく触れまゝで評価した
つもりでございまして、なお、疑問の点がございま
たら、ぜひもういっぺん再評価の審査の申請をしておい
だいて、絶対に私の方でも誤算のないということには申し上げ
られませんので、もういっぺんみさせていただいた方が結構
かと存じます。なお、ただいまう三百五十万増額だからとい
うお話でございしますが、これは私の方といたしましては、
館山市の三十一年度の収入をこゆだけなければまかなえない
とそういうような問題から行きまゝで最低の収入を見
込んでおられるとございまして、

なお、三百五十万の税額増額につきまゝでも、全部につ
いて引き上げたために増額になったものばかりではござい
ませんで、新築増築あるいは改築によりまして例え

ば大きいものは六軒町通り映画館が二つも新しいものが
 建ち、こういう増額もありますので、それを全部率に
 よって引くとか、減額するとか、そういうことは金般にひび
 きますので、考えられませんので、御了承願いたいと思つて
 おります。

・二十三番(高橋天治君) 九重 館野だけを下げるといふわけでは
 ないんで、非住家の方を金般に下げていただいてはどうかと、
 そういたしますと、
 九重と館野地区は今
 までは家屋の評価が高かったということに考えてよろし
 ゅうございますか。
 う方が下がったという
 ことを聞いておりますが、

・税務(課長(黒瀬芳雄君)) 九重が安かったと金般にわたっては
 ここで明言はできませんけれども、個人別に当ってそういう面が
 出たかも知れませんが、個々の村全体に当たって、この村が

高かったとか安かったということははっきりしません。大体神戶、この問題も今までの村時代の評価の方法とこんど自治庁から示された評価基準との差がニワ寄せがそういうことになっております。今までの各村の評価の方法もまちまちでありました。そういうことではないようにと一率にこんどは三十一年度を評価年度として基準に示されたとおり評価をやめとこういうことで参りました。一率に九重が安かったというふうなことも考えられませんが、あるいは個人的にはそういう家屋も出てきたではないかと思えます。結果からみて現在——の方が安かったではないかという見方も出てきます。

○三十四番(嶋貫杜作君)十五日で

期間が終了であります。

まいりたんですが、再評価の申請はまだまに合いますか。税務一課長(黒瀬芳雄君)明日までになっております。二十

日までになっております。

三十四番(鳴貫壮作君) 先だつて――

そういう問題うときに私は第一課長に固定資産税
の税額がいくらになつておるか。こゝう聞いたところが、
昨年度より七十万減になつておる。こゝういう言明を
聞いたんであります。――かるに今、高橋議員の答
弁の中、に三百五十万とか、増額になつてゐるということな
らう。聞いて第一課長は、こゝを――ううちに了承――
たかうごとき態度であります。いずか――で
あるか、はつきりとしてもらいたい。

・税務一課長(黒瀬芳雄君) いまう三百五十五万と申します。

のは先曰、質問に答えて三十三年度の評価額と三
十三年度の率をかけた合せて得た税額と三十四年度
の総評価額に本年年度の率をかけて出たものの差額が

いくら出ると三百五十五万円でございます。

（「総評価で三百五十万違うのか、税額で三百五十万ますのか」と呼ぶ者あり）それは家屋だけでございます。

ですから固定資産税全部、土地の方が百九十六万の減になりますので、その差引の数字を申し上げますたつもりでございます。

（差引いたつものの数字が七十万だね、いま高橋君に三百五十万とこういうことになったんだが、家屋の数字だけかと呼ぶ者あり）そうでございます。（その差引くと結局

「いくらになる」と呼ぶ者あり）こゝ間申上げた

つもりでした。けれども（七十万ということとは勘いたけれども

ほかうことは勘きません。そういうふうなあいまいな態度でなさる答弁は困るんであります」と呼ぶ者あり）

先日申し上げましたうは、三十年度の家屋の総評価

額と率と税額。それから三十一年度の評価額と率と税額。これは家屋、それから土地についても同じく前年と本年度。それから償却資産、この三つを。

(「だから三つの税額を加算して結局七十万の減になれば君がいったことは正しい。ところがそうでないとすると、君がいったことが間違っていることになる。その点を聞いてください」と呼ぶ者あり) 先日御報告申し上げました数字そのままここに持っておりますので、(これは間違っているか、間違っていないか)と呼ぶ者あり) 三百五十五万は家屋だけ (「家屋だけはわかってる」と呼ぶ者あり) (七十二万でございます)。(「これは大丈夫だ」と呼ぶ者あり) 大丈夫でございます。

議長(石井潔君)お諮りいたします。先ほど二十一番議員君が一般会計予算案は以上をもって質疑を

打ち切りつぎの審議に入るといふ動議でありました。

お諮りいたします。こゝ動議に御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議ないものと認めます。よつて、こゝより

第十号議案ないし第十四号議案を一括して質疑を行

います。

議長(石井潔君)しばらく休憩いたします。

議長(石井潔君)休憩前に引き続いて会議を開きます。

特別会計議案第十号ないし第十四号の質疑を行います。

三十四番(嶋貫杜作君)保険課長に願ひします。

昭和三十年度より保険料、支払済のものとして、これから払う

見込みのものを総額どのくらいありますか。

・保険課長(唐沢貞太郎君) 答え申し上げます。ただいま
うは保険料の支払済とおっしゃいます。たが、お医者
に支払う分 (「そうであります。そうでありてあります。」と
呼ぶ者あり)

・三十四番(鳴貫杜作君) 保険課長さんに申し上げます。
なぜそれを聞くかといいますと、保険料の予算が見積
られておるわけです。昨年度の実績と比較してみたいから
お尋ねするのであります。

・保険課長(唐沢貞太郎君) 総額はいまはつきり覚えてお
りませんが、 (「はつきりしたことを答弁してください。困
ります。」と呼ぶ者あり) 答弁いたしますとき、すく
お知らせ申し上げます。 (「答弁いたしました。お知らせいた
します。」と呼ぶ者あり) 調査いたしました。お知らせし
ます。 (「いつ知らせます。こゝ終つちつてから(笑声)終ら

はい前に答弁お願いします。と呼ぶ者あり。電話で連絡いたしました。総額をお知らせいたします。

・二十三番（高橋文彦君）保険課長さんにお伺いいたします。

（笑声）ここに提案されました特別会計の国民健康保険の歳入歳出予算の歳入の第一款第一項一目の国民健康保険料につきましてお尋ねしますが、この予算書を見ますと、

保険料の予算書には所得割、資産割世帯割、均等割と出てその四パーセント、一パーセント一五パーセント、三五パーセントとなっておりますが、

これは——
——そう割合でございますが、肝心要の——がこれに記入してありません。

これを教えていただかないと思ひます。これがなければどんな賢明な人でもおそらくこの予算の審議ができませんと思ひます。それを教えていただくことがひとつ。第二番目に

は繰入金でございすが、二十九年度には三百万円昨年
は当初予算は五十万円—— ございまして、今年は
百万でございすが、こゝで本年度用済なる繰入がで
きるを否や、こゝをお尋ねしますが、繰入金が少ないとそ
れだけ、市民税が重くなるのは当然でございすが、昨年
は当初予算で五十万円ありませんでした、二百五十万減額
でありましたために保険料が昨年急に三倍も増額さ
れたということになったと思つてあります。なお昨年は
市民税、すなわち所得税と均等割でもつて——
ということになっておりますが、合併前は本當り所得税
で賦課しておったわけでございすが、でありますから昨
年はこゝ所得割に対し—— 市民税、所得税——

—— ということになっておりますが、いまだ少し繰入
を多くして行かなければまた去年やうにいたつたけりや

いけないことになるのではなからうかと思ひます。

なお、ひとつお尋ねしますのは、百七十ページ第一款の諸支出金でございしますが、果て連合会負担金、あるいは市郡の負担金がこゝは移転的経費に該当しておつても特別会計でありますので、こゝに計上されたか、その点お尋ねいたします。なお、もう一点は、年間の一人当り医療費をお尋ねしたいと思ひます。こゝがわからなければ要するに——できないと思ひます。それをお尋ねしたいと思ひます。

・保険課長(唐沢貞太郎君)お答え申し上げます。一番最後、一人当り年間医療費から申し上げます。こゝが一番は、トメの御質問に関連性がございしますので、先だつて説明するとき申し上げますが、本年度は、いままでの実績から推しまして一人当り年間医療費を一千二百十三月と一応、いたしました。その基礎は一点、単価

は御承知のとおり十一月五十銭。それから一件当たり
平均点数を六十四・七。それから年間平均料率を一六
三パーセントと——以上によりまして一千二百十三円。
そして保険料として賦課すべき基礎はその半分の年
間一人当り六百七円——でございます。

（「保険人員は」と呼ぶ者あり）

被保険者は一応三万九千五百人と見込んでございます。
第一問についてお答え申し上げます。

御質問の要旨でございますが、保険の方は一般と違いま
して賦課基準の日にちが四月一日現在になっております。
そして保険料の算定に必要な経費は四月一日現在、いわ
ゆる年度当初の人員によって、その基準額を先ほど申
し上げました年間医療費の基準額を賦課調定
するということになっております。そうして条例の二十四

条にも規定してございしますが、二十六条、七条は、各、その
当該規則に必要なところの料率算定の方法が条例
で規定してございます。

（「そりゃわかつてますよ。——記入してない」と呼ぶ

者あり）

先ほどう質問う記入のできないのは、四月一日現在のあつ
てございまして当該年度の所得割を例にとりますと、
市民税として調定すべき額を基礎にして、そして料率
を算定いたします。その関係上、予算編成うおりに
は、まだ、当該年度の固定資産税、市民税というものが、
わかつておりませんから、後日、それを議会において議
決をいただいて、そうのために、ただ、賦課割合の所得税
の四、固定資産税の一、というものは、はっきりしてお
りますから、総予算面としましては、ここへ示したわけ

11, 25, 46, 69.

二十三番（高橋文治君）それでは料率がないでも二小を

・保険課長（廣沢貞太郎君）　　「そういう割合で一年間に賦課
し」という見込みでございます。

二十三番(高橋文治君) そりゃわかってますよ。 保険料の総額

の百分の四十から百分の四十を
二の市民

税の総額で賦課する。それはわかっていますけども料率
だけでは——できないと思うんです。

なぜ私はそういうことをお尋ねしますかという。私の方で、保険料が高い高いということが非常にいつてゐる市民が、昨年の例をみますと――家族も一人もない――

場合に市民税 — 三百九十

五月、それと、被保険者一人が――一世帯

当りが四百八十円、千百十五円というものは、なんといつても納めなければならぬ。納めてるわけですよ。それから、保険料が高いというわけなんです。市税の方は、三百九十五円。

保険料は約三倍だという。

・保険課長（廣沢貞太郎君）説明が不十分かも知れませんが、先ほど申し上げましたとおり、年度当初より四月一日を基準にいたしますので、ただいまより御質問の料率は現在出ておらないわけでございます。

（「了解、了解」と呼ぶ者あり）

・三十四番（嶋貫杜作君）今二十三番議員の質問に関連して、ここ（料率）をあげるといふ手はないですがね。四月一日現在で決められた、予定されて議会の承認を得た額が四〇パーセント、三〇パーセント、この予算額に盛られた額がそれと一致するか否かは、将来の問題で、従ってここ

え料率を書く必要がないことになるわけですが、この額が
 議会へ承認を得て定めるといふ額には、まだなっていない
 なっていない額で百分四十、百分五十だとか書いてもそれは
 なんら価値がない。だからここへこれを書いてはいけない
 だろうと思ふんだが、君はなかなか強情な人で人という
 ことを一向お用にたらない。で私がさっき聞いたのは
 一千二百なんぼという一人当りの算定する基準を知り
 たいために去年支出した実績の数をもとにするより
 仕方がない。それで聞いたんでありまして、それでことし
 予算に盛られている額と比較検討して、料率の議会の
 承認を求める額を決定し参考にするように思つてお尋ね
 したのであります。だから去年の支出によつて、その一千二百
 なんぼというものが算定されてこなければならぬものと
 私は考える。そうでないですか。

・保険課長（唐沢貞太郎君）ただいまうお話りとあり。その実績をもとに——でございます。

・三十四番（嶋貫杜作君）実績をもとに——であるならば、そのもの実績をここで聞かなくてもすぐわかるぐらいの用意がほ——いうであります。

・保険課長（唐沢貞太郎君）支払った総額はここへ持ってきてませんで——だが、

（「持ってきてもらうわけば困る資料だからお尋ね——ているうであります。」）と呼ぶ者あり

先ほど申し上げました年間

・三十四番（嶋貫杜作君）それで四月一日うなんに依じて算定すべきものである。だからまだ将来の問題になるか

ら、いまここの予算を審議するとき、聞いておきたい。そして、この予算額と一致させていいもんならば、一致させて予算額に一致しないものならば、予算は——それ以下の金だけ集めて行けばいいということになる。おわかりになりませんか。

・保険課長(唐沢貞太郎君) わかりました。

・三十四番(鴻貴杜作君) わかりましたならば、その手続きを——てもらいたい。取り寄せるとか。

・議長(石井潔君) 三十四番議員の質問を——ばらく保留いたしまして休憩いたします。

・議長(石井潔君) 再開いたします。先ほど、答弁保留がありました。まず、答弁のうたします。

・保険課長(唐沢貞太郎君) 三十四番議員さんにお答えいたします。

四月から十二月まで九ヵ月分う支払額一千三百九十六万三千百………そしてこれは御承知のとおりに十一月いっぱい

までは被保険者の数が少なくて、十二月までの被保険者の数がふえまゐた。(「十二月からこっちは」と呼ぶ者あり)

十二月からこっちはまだ請求参っておりませんが、大体一ヵ月百五十五万くらいと見込みをつけております。

・三十四番(鳴貫杜作君) それでどうしてこの一千二百何円というものを算定したか。

・保険課長(唐沢貞太郎君) 今まで四月からう累計でございします。

・三十四番(鳴貫杜作君) 四月からう累計だけでも、四月から三月三十一日までの累計を一定のところで割ったりかけたりして行つて、それで始めて出るわけだ。これを計算せずには

ったということになる。君の算定は不確定ということになる。

・保険課長（唐沢貞太郎君）四月から十二月までの実績を九カ月分足しまして、年間に換算をいたしまして、応見込みの数字を出したわけでございます。結局四月から十二月までの教子がでます。それから助産費・葬祭費が——出ております。これを保険給付費と——総額の見込額を（「総額の見込みはいいから」と払うべき）——くらいであるか、わからないか」と呼ぶ者あり。大体百五十万か百五十五万ぐらいと。——四百六十万ぐらいと一応ふんでおります。助産費・葬祭費とまぜまして、四百七十と考えております。

・三十四番（嶋貫杜作君）そうすると、百八十五万ぐらいか支払い

になる可能性がないわけだね。百八十万くらい支払いう可能になる。それをここへ保険料の支払いとして二千三百くらい負担はどういうわけになります。五百万違うと相対額になりますか。

・保険課長(唐沢貞太郎君)

分を

料率で差し引きまいたが、一応そろそろいう率で使うだろうという見込みでいたわけでごさいます。だから三月まで実績をあげますと、結局残った四カ月分は人数が多いとき実績で、九カ月分は人数の少ないとき実績、それを差し引き換算すれば、大体見込額というものは想像つきます。現在ではそこまでまだ確定につかめませんが、一応……

・三十四番(嶋貫社作君)換算したというんでしよう。換算した分を一カ月分で見ると一千八百五十円、五百万も多いという

ことは、こんど保険料を決める。もとを決めるときに五
 百万余計——で違ってくる。それでひとつは申し上
 げでいるのであります。あまたの一千二百なんぼという
 もうが正しいということになれば異議も申し上げません
 けれども、誤った算定法によつて架空の数字をもとに
 して算定なされたということは、我々不平を言わな
 ければならぬ。それでなくても、保険料は高いという定
 評があるんだから、なお、そうなる。

三十四番(鳴貫杜作君)

市長(田村利男君) 実質面においては、さうで増額されて
 おりますけれども、今まで実際には、使用不可能に

陥っておりまゝレントゲンを三百ミリレントゲン八十五万を計上いたしまゝで著々内容充実に努力している状況でございます。

三番（福岡保徳君）十一号議案に関連しまして二月の——
——報告に保険料は三百十四万滞納になつておると、そのうち約五十六万三千円が時効に付ておる分、その五十六万三千円の時効に付てゐる分は保険課長さんにはできるだけとるんだとおつています。が、市長さんは、この五十六万円の当局の事務の生じた五十六万円の処置をやり、課長さんと同様のお考えであるのかどうか。

市長（田村利男君）四十八万——と七万三千円の問題でございすが、四十八万円はすでに合併当初に旧村におきまして時効になつておつたわけでございますが、その

当時、事務の錯綜のために時効であつたということも
未確認であつたような話でございます。従いまして、

こゝは保険料でございますので、金額をあきらめるといふ
ことなしに、おたがいにご相談して、少くでも滞納を整理
して、行きたいと考えております。——カーながら、実際問
題としてはいくら——実績は上がつてこないんで

七万三千円

につきましては、保険課長をして答弁させます。

・保険課長（唐沢貞太郎君）七万三千円は自然増でござい
まして引き継ぎうるときに保険は急に合併してゐるといふ
ような話になりまして、引き継ぎうるときには書類が完備し
ておりません。引継後合併した当時の暮ごころになつて
ようやく調査簿が完備したようなわけでございまして
その間に——時効になつたものでございまして——

て、これにつきまゝでは――

話し合つて、そうして

納めてもらうつもりでございます。

二十七番（伊勢仙之助君）議事進行につきまゝで動議を提出いたします。議案第十号、十一号、十二号、十三号、十四号、この四号の質疑に對しまゝでは、一応終了したようであり、ますし、また細かい計数的な問題につきまゝでは、議案九号の一般會計と合わせまゝで、特別委員會に付託したいと思ひます。なお、委員會の構成といたしましては、決算委員に入つた方は、一応除いて、各常任委員から一名ずつは、最低出していただくという線で、総員十四名の大体、偶数で行くことが常識になつておるようであり、ますから、十四名で、その選任については、議長に一任したいと、このやうに動議を提出いたします。

議長（石井潔君）ただいま、二十七番議員から動議が提出さ

小たんてございしますが、この動議に御異議ございせんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) それではさう決定をいたしました。
暫時休憩をいたします。

議長(石井潔君) 審査特別委員会を設置し動議が提出され
ましたので、その委員の選任は議長一任ということに
ございします。で慎重に委員の選定をいたしましたので
御報告申し上げます。議席番号を省略いたします。
小谷無遠君、大野清五郎君、秋山万次君、鈴木市蔵
君、小沢太助君、石井平次君、萩生田七郎君、田中祿
郎君、伊勢仙之助君、山口康君、望月暉作君、
嶋貫杜作君、小沢光義君、嶋田繁君、以上十四名の

方をお願い—たいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・十七番（鈴木市蔵君）私が一名交つておるようでございますが、私は健康がすぐれないもんで、副委員長に代理をお願いいたしたいと思ひます。

・議長（石井潔君）ただいま十七番議員鈴木市蔵君より病氣につき辞退という御意見がございまして、それが、その代りを吉田勇治郎君に水産副委員長に代えてくれという御要求でございますが、これを代えることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よつて鈴木市蔵君に代つて吉田勇治郎に決定をいたします。

ただいま設置さるべき予算審査特別委員会に先は

どう動議のとなり第九号のいし第十四号議案を一括して付託いたします。

十八番(小沢太助君)議事進行上、意見を申し上げます。

会期日程の変更につきましては二十日、二十一日、二十二日、二十三日は予算審査特別委員会より予算審査のため本会議は休会とし、予算審議は明二十日から審議を行いたいと思います。本会議は二十四日に開くことといたしたいと思います。

議長(石井潔君)お諮りいたします。ただいま十八番議員より会期日程変更の動議がなされたが、さうように決定いたすことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議ないものと認めます。よって十八番議員の動議のとおり決定いたします。

議長（石井潔君）本日、會議はこゝをもつて散會いたします。
次回はきたる二十四日、午前十時、開會といたします。
なお申し上げます。予算審査特別委員会より委員の方々におかれましては、ただちに委員長、副委員長を互選していただきます。以上でございます。

